

18世紀。世界を変えた

きつかけは

マネーじゃなくて、

マネでした。

経済はどんなふう

動いてきたのか。

竹田先生、教えてください。



18世紀まで、アジアは織物業の

先進地域でした。丁寧な手仕事で

つくられたアジアの織物は軽く、

肌触りも良く、美しかった。

ヨーロッパの人々はその高い品質、

ファッション性に惚れ込んだのです。

しかし彼らはそれだけでは

飽き足りませんでした。

自らアジアの織物を作ろうとしたのです。

彼らは生産体制を機械化することに成功。

ヨーロッパ製の模倣品は大量生産され、

世界中の人々のあいだに一段と広がっていきました。

つまり、産業革命の出発点は「これが欲しい」という

人間の欲望だったとも言えるのです。

このように1つのモノの生産・流通・消費の

歴史を学んでいくと経済の原理や現在の社会の

成り立ちが見えてくる。

それは未来を生きるために重要な視点を

養うことになると思います。



経済学科
竹田 泉



和光3分大学

現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学